

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」

久留米大学 実施報告書



実施主体 文学部 社会福祉学科1～3年生有志

実施内容 平成25年9月29日の久留米市内及び大学内啓発活動

①事前に取り組んだ内容

本学の社会福祉学科の1～3年生の学生(合計310名)へ、児童虐待への認識についてのアンケートを実施した。アンケート内容としては、児童虐待の認識、虐待発見の際の対応、相談先、児童虐待へ興味を持った機会などについて行った。その結果、学年が上がるごとに、虐待の定義の理解が深まるとともに、虐待への対応についての主体的な回答が見られた。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

午前中は、学生49名を3グループに編成し、西鉄久留米駅の西口・東口、JR久留米駅の水天宮口・まちなか口、ゆめタウン久留米にて児童虐待防止のチラシの配布を行った。チラシの配布は、本学で印刷した500枚全てを配布した。

午後からは、学内にて、福岡市子ども総合相談センター 久保健二氏による「児童虐待の防止」についての講演会をおこなった。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

(チラシの配布を終えて)

オレンジリボン運動のことを知らない人が多いんだなと思いました。地域の方から「オレンジリボン運動って何なの?」という質問もありました。これからは、もっと地域の人にもオレンジリボン運動を知ってもらって、少しでも児童虐待がなくなれば良いなと感じました。そして、もし虐待があった時のために、適切な対応ができるようにしたいです。

(1年生・女子)

(講演を聞いて)

しつけとして暴力をする親も少なくないと感じます。どこまでがしつけなのかということでは難しいところもあると思うけれど、地域の方の支えや子どもの変化に気づいてくれる環境というものを広げていけたらと思います。自分が知らないかなしい現状があることが知れて、胸が痛くなりましたが、少しでも支援できるようになれたらと思います。(1年生・女子)



一般の方々がこの運動に少しでも興味を持ってくれるということがとても嬉しい!!

多くの人に認知してもらえるように、たくさんの人に広げていきたい!!



あまり知らない人が多い!!

児童虐待がなくなっ
て欲しい!!